

〈研究ノート〉

## ナーナイ語のモダリティ

風間 伸次郎

ナーナイ語はツングース諸語の1つである。ツングース諸語は、典型的にみて日本語にもよく似たタイプの言語で、もっぱら接尾辞による膠着型言語である。語順はHead-final、つまりSOVで修飾語-被修飾語の順序をとる。基本的にIPAをベースにした音素表記によるが、一音素一文字の原則などの理由から、次のような独自の音素表記も用いている：č[tc], j[ɕ], ǰ[n].

コンサルタントはKile, Lidiya Timofeevna氏(1938年, ナイヒン村生まれ, 女性)である。調査はロシア語を媒介言語にして行った。日本語文の下の[ ]内に使用したロシア語文を示す。

ここでは本稿の理解に必要なナーナイ語の動詞の形態論について概観しておく。動詞は、[[語幹](-派生接辞)-[屈折接辞1]-[屈折接辞2]]のような構造をとる。派生接辞は任意、屈折接辞は基本的に必須である。屈折接辞1はモダリティ・時制を示し、屈折接辞2は人称を示す。屈折接辞2は、屈折接辞1の種類によっては現れない場合もある。屈折接辞1は、次にくる語に対するきれつづきによって、定動詞、形動詞、副動詞の3つに分かれている。ここでいう形動詞は、分詞的な形のことで、日本語でいえば連体形、特に準体法をそなえた古文の連体形に近い働きを持つ形式である。形動詞には述語用法もあり、実際には形動詞が文末の述語として使われる頻度はかなり高い。

以下に定動詞および形動詞の一覧表を示す。副動詞は本稿ではあまり問題にならないので省略する。なお大文字のA, Oは母音調和(a~ə, o~u)による交替形が存在することを示す。

表 1: 屈折接辞 1 (定動詞)

語幹の種類		母音語幹	長母音・連母音語幹	子音語幹	不規則動詞
直說法	現在	-(r)A(n)-	-rA(n)-	-dA(n)-	bi-ə(n)-, o-da(n)-, ji-də(n)-, ga-da(n)-
	過去	-kA-	-kA-	-kA-	bi-čə-
	未来	-jAA(n)-			
	過去複数	-xAAI			
命令法	現在 2 sg.	-rOO~-O	-rOO	-dOO	bi-ruu, o-doo, ji-duu, ga-doo
	現在 2 pl.	-O-sO	-rOO-sO	-dOO-sO	bi-ruu-su, o-doo-so, ji-duu-su, ga-doo-so
	現在 1/3 sg.	-gI-			
	未来 2sg.	-xAARi			
	未来 2pl.	-xAAR-sO			
希求法		-ŋAsi=tAnII (グループ III につく場合, 語幹末の n は落ちる)			
仮定法		-mčA-			
意志・勧誘法		-gO-	-gO-	-gO-	bi-pugu-, o-pogo-, ji-gu-, ga-pogo-

表 2: 屈折接辞 1 (形動詞)

語幹の種類		単母音語幹	長母音語幹 ・連母音語幹	子音語幹 (-n/-l/-r)	子音語幹 (-p)
人称 形動詞	肯定現在	-i	-rii	-dii	-tii
	肯定過去	-xAn			-kin
	否定現在	-Asi(n)	-rAsi(n)	-dAsi(n)	-tAsi(n)
	否定過去	-Ači(n)	-rAči(n)	-dAči(n)	-tAči(n)
非人称 形動詞	肯定現在	-Ori			-pOri
	肯定過去	-OxAn			-pOxAn
	否定現在	-wAsi			-pOwAsi
	否定過去	-wAči			-pOwAči

表1にみるように、定動詞語尾では、直説法に対する意味的に有標なモダリティの形式として命令法、希求法、仮定法、意志・勧誘法がある。命令法では、現在命令法と未来命令法が区別される点特徴的である。1/3人称に対する命令形があるのも特徴的ではあるが、この形式は現在衰退しかかっている。仮定法の形は、反実仮想の条件文における帰結節（主節）に用いられる形である。非人称形動詞は、「～できる、～すべきだ」などの意味を実現する。非人称形動詞の用法については、風間（2006）も参照されたい。

以下には、アンケートにより得たデータを示す。ナーナイ語の例の後には、逐語的な日本語訳も示すことにする。

- (1) (その仕事が終わったら) もう帰ってもいいですよ。

[(Когда закончите работу) можете уходить домой.]

jobo-mi                    {xoʃi-mi                    /xoʃi-pi},  
work-SIM.CONV        finish-SIM.CONV / finish-COND.CONV

ʃook-či-ji                    {ənu-i=dəə                    /ənu-mi}                    aja.  
house-DIR-REF.SG.POSS    leave-PRS.PTCP=CUM /leave-SIM.CONV    good  
「働き終わったら、自分の家へ {去るも/去って} よい」

「許可」は日本語に似て aja 「よい」という形容詞を用いた分析的な表現によって示す。可能の形式とのつながりはない。

- (2) (腐っているから、あなたは) それを食べてはいけない。 / それを食べるな。

[(Оно уже испортилось,) {это нельзя есть. / ...не ешь это.}]

waʃao-xan,                    {sia-mi                    ača-asi                    /ča-wa                    əʃi                    sia-ra}.  
decay-PST.PTCP    eat-SIM.CONV        go.with-NEG.PRS.PTCP /that-ACC        PRH        eat-INF  
「腐った, {食べては合わない / それを食べるな}」

「禁止」には、上記のように2通りの表現がある。一つは ača-「合う、会う、適う」という動詞の否定形を使うものである。もう一つは禁止の小詞 əʃi を用いるものである。ツングース祖語には否定動詞語幹 ə- があり、これが活用し、否定される動詞はその後ろに置かれることによって、否定構造を形成したものと考えられる。現在でも多くのツングース諸語にそのような否定構造がみられる。ナーナイ語ではこのような否定構造が衰退し、

否定動詞の一部の変化形は化石化して残存している。禁止の小詞 *aji* もその一つである。否定される動詞はやはりその後ろに現れて一種の不定形をとる。

どちらの表現形式も、肯定の命令形とは形の上で関連がない。

(3) (遅くなったので) 私たちはもう帰らなければならない。

[*(Уже поздно.) Нам пора возвращаться домой.*]

*siksə(rəəŋ)-gu-xən, buə jook-či-ji ənu-i=mət aja.*  
*draw.in-REPET-PST.PTCP 1PL.PRN house.DIR-REF.SG.POSS leave-PRS.PTCP=EMP good*

「日が暮れた、私たちは自分の家へ去ってこそ良い」

「義務」でも(1)の「許可」と似た形式、すなわち *aja* 「よい」を用いた分析的な表現が使われる。=*mət* はここでは強調の付属語として機能している。[V-形動詞語尾/V-副動詞語尾+ *aja* ] の構造は、日本語の「～して(も) よい」よりも広い意味範囲を持っている。この上記の文では強いニュアンスがあり、朝鮮語の “*hai'ia hada/doida*” を思わせる。

(4) (雨が降るそうだから) 傘を持って出かけたほうがいいよ。

[*(Похоже, будет дождь.) Лучше взять с собой зонт.*]

*sainaa tugdə tugdə-jərəə, zonta-wa japa-mi aja.*  
*probably rain(n.) rain-FUT.IND.3 umbrella-ACC take-SIM.CONV good*

「たぶん雨が降るだろう、傘を持ってよい」

*sainaa tugdə tugdə-jərəə, zonta-wa japa-ori-wa gələ-i.*  
*probably rain rain-FUT.IND.3 umbrella-ACC take-IMPERS.PTCP-ACC want-PRS.PTCP*

「たぶん雨が降るだろう、傘を持つことが必要だ」

「推奨」でも、2種類の表現方法が観察される。1つはやはり *aja* 「よい」を用いた分析的な表現である。もう1つは *gələ-*「求める、探す、必要とする、欲しがる」という動詞を使用して分析的に表現する。

(5) 歳を取ったら、子供の言うことを聞くべきだ／ものだ。

[*В старости нужно прислушиваться к тому, что говорят тебе (твои) дети. / В старости люди обычно прислушиваются к тому, что говорят им (их) дети.*]

sagdaŋ-go-i-do-ji, {nuučī / naonjoan} gurun xai-wa=daa  
 grow.old-REPET-PRS.PTCP-DAT-REF.SG.POSS small / young people what-ACC=CUM

sun-či un-dii-wə-ni {dosoja-mi aja / dosoja-ori}.  
 2PL.PRN-DIR say-PRS.PTCP-ACC-3SG.POSS listen-SIM.CONV good / listen-IMPERS.PTCP

「歳を取った時に、{小さい／若い} 者たちが何でもあなたに言うのを {聞くのがよい／聞くべきだ}」

「評価的義務」の表現では、aja 「よい」を用いた分析的な表現とともに、非人称形動詞を用いた表現が得られた。

(6) (お腹が空いたので、私は) 何か食べたい。

[Я проголодался.) Хочется чего-нибудь перекусить (поесть).]

mii jəmusi-əm-bi, {xaijam=daa / xai=daa} sia-ori-ja  
 1SG.PRN be.hungry-IND.PRS-1SG whatever=CUM / what=CUM eat-IMPERS.PTCP-ACC

gələ-i.

want-PRS.PTCP

「私はお腹が空いている、何でも(いいから何か)食べる物が欲しい」

mii jəmusi-i, xaijam=daa sia-iča-am-bi / sia-iča-i-ji.  
 1SG.PRN be.hungry-PRS.PTCP what=CUM eat-INT-PRS-INF-1SG / eat-INT-PRS.PTCP-1SG

「私はお腹が空いている、何でも(いいから何か)食べたい」

「希望」に関しても、2種類の表現が得られた。1つは gələ-「求める、探す、必要とする、欲しがるといふ動詞を用いた分析的な表現である。もう1つは、文法的派生接辞(語幹拡張接辞) -iča 「～したい、～しそうだ」を用いた表現である。

(7) 私が持ちましょう。

[Давайте я понесу.]

buu-ruu, mii olbiŋ-go-ji-ja  
 give-IMP 1SG.PRN bring-COHOR-1SG.POSS-OBL

「渡せ、私が運ぼう」

「意志」には、意志・勧誘法の形式が用いられる。

- (8) じゃあ、一緒に昼ごはんを食べましょう。

[Давайте поведем победаем вместе!]

gəsə            sia-nda-go-ari.  
together    eat-DIRINT-COHOR-REF.PL.POSS  
「一緒に食べに行きましょう」

勧誘にも意志・勧誘法が用いられる。これは日本語の「～う／～よう」形が意志と勧誘の用法を持つのと似ている。

- (9) 一緒に昼ごはんを食べませんか？

[He поведаете со мной вместе?]

min-ji            gəsə            sia-nda-asi-si?  
1SG.PRN-INS    together    eat-DIRINT-NEG.PRS.PTCP-2SG  
「私と一緒に食べに行かないか？」

「(相手の意向が不明な場合の) 勧誘」では、日本語や媒介言語のロシア語と同様に、(2人称の) 否定の疑問表現を用いることができる。

- (10) 明日、良い天気になるといいなあ。／明日は良い天気になってほしいなあ。

[Неплохо, если завтра будет хорошая погода.

/Как хочется, чтобы завтра была хорошая погода!]

čimana    uləən    boa    o-dii-wa-ni                            xalači-am-bi.  
tomorrow fine    sky    become-PRS.PTCP-ACC-3SG.POSS    wait-IND.PRS-1SG  
「明日良い天気になるのを(私は)待っている」

čimana    uləən    boa    o-powaan-doo.  
tomorrow fine    sky    become-CAUS-IMP  
「明日は良い天気にならせよ」

※ ?? čimana    uləən    boa    o-gi-ni.  
tomorrow fine    sky    become-IMP-3SG

「希望」においては分析的な表現と、使役の命令形が得られた。ここで筆者は3人称命令形による例(※)を作例し、コンサルタントにその適格性を判断してもらったが、「言えるかもしれないが、あまり言わない」との内省であった。なお *xalači-* は単に「待つ」の意で、「期待する」というような意味ではない。

(11) (私はここで待っているから) すぐにそれを持って来なさい。

[Я подожду тебя здесь, а ты) сходи принеси мне ту вещь сейчас же!]

*mii simbiwə əi-du xalači-i, sii əsi=bəki ənə-rəə*  
1SG.PRN 2SG.ACC this-DAT wait-PRS.PTCP 2SG.PRN now=EMP go-ANT

*təi {axora-wa / ča-wa} nəə {gaaʃo-o / gaaʃo-roo}.*  
that thing-ACC / that-ACC right.now take-IMP / take-IMP

「私はおまえをここで待っている、おまえは今行って {その物を / それを} すぐに持って来い」

「命令」には、定動詞語尾の一つである命令形が用いられる。

(12) そのペンをちょっと貸していただけませんか？

[Не могли бы Вы на минутку одолжить мне ручку?]

*suə bai baŋ niru-ku-wə buu-məəri mutə-əsi-su.*  
2PL.PRN only a.little write-NMLZ-ACC give-SIM.CONV.PL be.able-NEG.PRS.PTCP-2PL

「あなたはちょっとペンを(貸して)くれてできますか」

「懇願」は [V-副動詞語尾 + *mutə-* (可能動詞)] による構造で表現された。これは媒介言語であるロシア語で、*moch'* 「～することができる、～してよい」が用いられていたことの影響による可能性がある。

*buu-ŋə-si=tənii* [give-OPT-2SG=SPEC] による文を作例してその適格性を伺ってみたところ、その文は「誰か他の人にあげなさい」の意味になるとのことであった。

(13) あの人は中国語が読めます。 / あの人は中国語を読むことができます。

[Он умеет читать по-китайски.]

ñoani nikan xəsə-ji-ə-ni xola-mi  
3SG.PRN chinese language-INS-OBL-3SG.POSS read-SIM.CONV

{mutə-i-ni / otoli-i(-ni)}.  
be.able-PRS.PTCP-3SG / understand-PRS.PTCP-3SG

「彼は漢人の言葉で読んで {できる／理解できる}」

上述したように mutə- はロシア語の moch' と意味的によく対応し、状況可能の意味である。この文は「能力可能」の文である。しかし最初に mutə- による例文が示された。したがって、mutə- は能力可能から状況可能にまたがる広い意味範囲を持っているとみることができよう。

(14) 明かりが暗くて、ここに何て書いてあるのか、読めない。

[Темно, не могу прочитать что тут написано.]

pakči, xai-wa=daa niru-uxəm-bə xola-mi mutə-əsim-bi.  
dark what-ACC=CUM write-IMPERS.PTCP-ACC read-SIM.CONV be.able-NEG.PRS.PTCP-1SG

「暗い、何も書いてあるのを読んでできない」

「状況可能」では、やはり mutə- が用いられる。

(15) (朝早く出発したから) 彼らはもう着いているはずだ。／もう着いたに違いない。

[[Они выехали рано утром) и уже должны были добраться.

/и уже наверняка добрались.]

ñoači čimii ərdə susu-xə-či, əsi isi-go-gila-i-či.  
3SG.PRN morning early depart-PST.PTCP-3PL now reach-REPET-OBLG-PRS.PTCP-3PL

「彼らは朝早く出発した、今着いているはずだ」

ñoači čimii ərdə susu-xə-či, saina  
3PL.PRN morning early depart-PST.PTCP-3PL probably

jju-xə-či (bi-jərəə).  
return-PST.PTCP-3PL be-FUT.IND.3

「彼らは朝早く出発した、たぶん帰り着いただろう」



「確信」については、2種類の表現が得られた。1つは義務等を示す文法的派生接辞（語幹拡張接辞）-gilA-「～しなければならない、～に違いない」による表現であった。もう1つは陳述副詞 *sainaa* 「たぶん」を用いた表現で、形動詞で終えた文末にさらにコピュラの未来形を続けて「確信」のモダリティを示す方法である。

(16) (あの人は) 今日हतぶん来ないだろう。

[(Он) завтра, наверное, не придет.]

ñoani čimana ji-dəsi bi-ǰərəə.  
 3SG.PRN tomorrow come-NEG.PRS.PTCP be-FUT.IND.3  
 「彼は明日来ないだろう」

「推量」はやはり形動詞で終えた文末にさらにコピュラの未来形を続けることによって示される。(15)では陳述副詞 *sainaa* 「たぶん」が用いられ、(16)では用いられていないが、これは(15)のロシア語に *navernjaka* 「確実に、きっと」が用いられているのに対し、(16)にはそれがないことに起因するものであろう。

(17) 彼らがまだ来ないなんて、きっと途中で車が壊れたんじゃないか。

[Они пока не приехали: наверняка где-то по дороге сломалась машина!]

ñoači əčiə jju-ə, sainaa mashina-či  
 3PL.PRN NEG.PST return-INF probably car-3PL

pokto-do boja-xa-ni bi-ǰərəə.  
 road-DAT break-PST.PTCP-3SG be-FUT.IND.3

「彼らが戻って来なかった、たぶん車が道で壊れたのだろう」

「疑念」の文も「推量」と同様に、陳述副詞 *sainaa* 「たぶん」および [V-形動詞語尾+コピュラの未来形] の構造によって表現される。

(18) さあ、(昼間だからあの人は家に) いるかもしれないし、いないかもしれない。

[Хм-м-м... (Сейчас день, поэтому) его может не быть дома.

(lit.) Хм, (сейчас дневное время, поэтому он) может быть дома,  
 а может и не быть.]

əsi ini,            ŋoani    ʃoog-do    abaa        bi-ʃərəə.  
 now daytime    3SG.PRN    house-DAT    nothing    be-FUT.IND.3  
 「今は昼だ、彼は家にいないだろう」

「可能性」もやはり [V-形動詞語尾+コピュラの未来形] の構造によって表現され得る。したがってこの表現は確信度の強さに関わらず、「確信～推量～疑念～可能性」にわたって広く用いられるとみてよいだろう。

(19) (額に触ってみて) どうもあなたは熱があるようだ。

[(Потрогав рукой лоб) У тебя, похоже, температура...]

sii            saina    poloŋ-ko-si.  
 2SG.PRN    probably    fever-PROP-2SG  
 「おまえはたぶん熱がある」

「視覚／聴覚以外の感覚による判断」においては、単に陳述副詞 *saina* 「たぶん」が用いられているのみで、文末は直説法の形式である。こうした実相 (evidentiality) の違いは、(少なくともこのような場合に) 特にこの言語では義務的な形式を要求しないことがわかる。

(20) (天気予報によれば) 明日は雨が降るそうだ。

[(По прогнозу погоды) завтра будет дождь.]

uŋ-ki-či,            čimana    tugdə-i-ʃə=m.  
 say-PST.PTCP-3PL    tomorrow    rain-PRS.PTCP=EMO=QUOT  
 「言っていた、明日は雨が降ると」

この言語は特別な「伝聞」の文末形式を持たない。「伝聞」は、このように引用の付属語 =m による引用節と、不定の主語を示す 3 人称形の述語「言う」によって表現している。ただし、3 人称の動詞形によって不定の主語を示すやり方は、ロシア語からの影響によって最近成立した可能性がある。

(21) もしお金があったら、あの車を買うんだけれどなあ。

[Будь у меня деньги, я бы эту машину купил...]

jixa-ko osini, mii əi mashina-wa ga-mčā-i.  
 money-PROP if 1SG.PRN this car-ACC take-SUBJ-1SG

「お金があるなら、私はこの車を買うのだけれど」

「反実仮想」の条件文の帰結節の述語には、仮定法 -mčA が現れる。条件節は直説法に条件の接続詞 osini を用いて形成する。

(22) もしあなたが教えてくれていなかったら、私はそこにたどり着けなかったでしょう。

[Если бы ты мне не объяснил, я бы сам дорогу туда не нашел.]

sii {min-či / mimbi-wə} aloosi-asi osini, mii mənə  
 2SG.PRN 1SG.DIR / 1SG.PRN-ACC tell-NEG.PRS.PTCP if 1SG.PRN oneself

taosi ənə-uri pokto-wa əčiə baa-mčā-i.  
 there go-IMPERS.PTCP road-ACC NEG.PST find-SUBJ-1SG

「おまえが{私へ/私を}教えないなら、私は自分でそこへ行くべき道を見つけなかっただろう」

「反事仮想の過去」の文であるが、仮定法の動詞形と、否定動詞が化石化した過去の否定小詞 əčiə によって表現される。

(23) (あの人は) 街へ行きたがっている。

[[Он] хочет пойти в город.]

ñoani xoton-či ənə-ičə-i-ni.  
 3SG.PRN city-DIR go-INT-PRS.PTCP-3SG

「彼は街へ行きたい」

3人称主語による「希望」の表現であるが、文法的派生接辞(語幹拡張接辞)の -ičA 「～したい、～しそうだ」によって表現される。この形式は主語が1人称でも3人称でも同じように使えるので、日本語におけるような感情述語における人称制限は観察されない。

(24) 僕にもそれを少し飲ませろ。

[Дай(те) и мне немного попить (воды)!]

buu-ruu-su, mii      ŋaŋga    (muə-wə)    omi-go-ji-ja.  
give-IMP-2PL    1SG.PRN    a.little    water-ACC    drink-COHOR-1SG-OBL

「よこせ、私は少し水を飲もう」

いわゆる「1人称命令」の文であるが、意志・勧誘法が用いられた。先行研究(Avrorin (1961: 126) など)によれば1人称命令には *v-gi-ta* のような形式が用いられると記述されているが、少なくともコンサルタントの方言では、この形は衰退していてもはや用いられないようである。

(25) これはあの人に持って行かせろ／持って行かせよう。

[Давай поручим ему это отнести. / Поручи ему это отнести.]

ŋoam-ba-ni              ča-wa              ira-go-waan-doo.  
3SG.PRN-ACC-3SG.POSS    that-ACC              bring-REPET-CAUS-IMP

「彼にそれを運ばせろ」

いわゆる「3人称命令」の文だが、使役の命令形が用いられる。3人称命令形を用いて筆者が作例した文 *ŋoani ča-wa ira-gi-ni*. [3SG.PRN that-ACC bring-IMP-3SG] も使用可能であると判断された。

(26) そのテーブルの上のお菓子は後で食べなさい。

[Сладости, которые на столе, съешь потом.]

dərə-du    bi-i              amta    ʎaka-wa,  
table-DAT    be-PRS.PTCP    sweet    thing-ACC

tota-pi                      {sia-ŋa-si=tanii / sia-xaari}.  
do.that-COND.CONV    eat-OPT-2SG=SPEC / eat-FUT.IMP

「テーブルにある甘い物をしばらくしてから {食べるがよい／食べよ}」

「未来命令」の文だが、未来命令形とともに、希求法の例が得られた。希求法に関してはテキストから得られる例も少なく、その機能についてはまだ十分に明らかになっていない。コンサルタントによれば、上記の2つの表現は、聞き手が大人でも子供でも、知り合いでもそうでなくとも同じように用いることができるという。意味もほとんど同じであるという。したがって一方のほうの表現がより丁寧である、というようなことではないよう

だ。

なお、日本語には未来命令形というものは特別に存在しないが、「～しておけ」と、補助動詞「て おく」を用いて命令形を作ると、「(今すぐにではなく、後で)しろ、」というニュアンスが実現される。

(27) もっと早く来ればよかった。

[Нужно было нам раньше приходиться...]

buə          ərdə-ləə          ji-či-pu                  osini aja          (bi-čin).  
1PL.PRN      early-COMP      come-PST.PTCP-1PL      if      good      be-PST.PTCP

「私たちはより早く来たなら良かった」

やはり「反実仮想」の文であるが、ここでは特に仮定法の動詞形は現れていない。

(28) あなたも一緒に行ったら（どうですか）？

[Ты не хотел бы пойти с нами?]

sii              bun-ji              ənə-əsi-si?  
2SG.PRN      1PL.PRN-INS      go-NEG.PRS.PTCP-2SG

「おまえは私たちと行かないか？」

ənə-uri-wə                                  {murči-əsi-si                  / čixala-əsi-si}?  
go-IMPERS.PRS.PTCP-ACC                  think-NEG.PRS.PTCP-2SG / agree-NEG.PRS.PTCP-2SG

「行くべきことを {考えないか？ / 同意しないか？}」

条件形をはじめとする副動詞形などで文が終わるかについての研究が近年なされており、副動詞形で文を終える現象は insubordination と呼ばれている。日本語の文はそのような文になっているが、媒介言語のロシア語の文がそのようなになっていないため、insubordination の文は得られていない。

(29) オレがそんなこと知るか。

[Откуда я знаю?! / Откуда мне знать?!]

mii              {xai-la          saa-ram-bi.                  /saa-rasim-bi}.  
1SG/PRN      what-LOC      know-PRS.IND-1SG / know-NEG.PRS.PTCP-1SG

「私がどこから知るか / 知らない」

osaa, (mii saa-rasim-bi).  
 I.do.not.know 1SG.PRN know-NEG.PRS.PTCP-1SG  
 「さあ、(私は知らない)」

これもロシア語からの直訳調の文になっている。ただし、この言語で疑問詞による反語表現が多用されることは事実である。反語の場合、文末の動詞形には直接法定動詞の形が現れる。

osaa は, ui saara. [誰が 知る] が縮約してできた語と考えられるが、だとするとこれも元来疑問詞による反語表現であったということになる。

(30) これを作った(料理した)のは、お母さんだよな? いいえ、私が作ったのよ。

[- Это, ведь, твоя мама приготовила?  
 - Нет, это я сама.]

ai ani-si {bargi-xa-ni / ta-xa-ni / pujuu-xə-ni}?  
 this mother-2SG.POSS make-PST.PTCP-3SG / do-PST.PTCP-3SG / cook-PST.PTCP-3SG  
 「これはあなたのお母さんが {準備した? / した? / 調理した?}」

abaa, mii mənə (pujuu-xəm-bi).  
 no 1SG.PRN oneself cook-PST.PTCP-1SG  
 「いいえ、私が自分で調理した」

付加疑問 (tag question) による確認表現を得ようとした調査例文であるが、特に終助詞等のようなものは用いられていない。こうしたニュアンスは、この言語ではおそらくイントネーションによって表されているものと考えられるが、イントネーションの研究は今後の課題である。

以下では、ナーナイ語のモダリティの諸形式に関して、その表現形式の面から若干整理しておくことにする。さらに、対照のため、日本語の諸形式も同様に整理して示すことにする。

表3にみるように、ナーナイ語には付属語による表現がない。他方、日本語では「ベキダ、ヨウダ、ソウダ」などの「形式名詞+ダ」およびそれに類する形式や終助詞がモダリティ表現において重要な役割を担っている。ただし、ナーナイ語でも若干の終助詞がモダリティの機能で用いられていると考えられる (=tAnii など) が、今回の調査ではそのような例があまり現れなかった。

欲求的モダリティが両言語でともにもっぱら屈折形式によって表現されていることは通言語的に普遍的な傾向であるのかもしれない。

ナーナイ語において「希望」が、日本語において「可能」が派生接辞で示されることは、それぞれがアスペクトやヴォイスと連続していることがその原因である可能性がある。

表 3: ナーナイ語のモダリティ形式（日本語との対照）

		ナーナイ語				例 文 番 号	日本語			
		派 生 接 辞	屈 折 接 辞	付 属 語	分 析 的 表 現		派 生 接 辞	屈 折 接 辞	付 属 語	分 析 的 表 現
拘束的 モダリティ	許可					1				
	禁止					2				
	義務					3				
	推奨					4				
	評価的義務					5				
欲求的 モダリティ	希望					6				
	希望（3人称主語）					23				
	意志					7				
	勧誘					8				
	勧誘（意向不明）					9				
	3人称命令					25				
	1人称命令					24				
	命令					11				
	未来命令					26	—	—	—	—
	懇願					12				
動的 モダリティ	能力可能					13				
	状況可能					14				
認識的 モダリティ	確信					15				
	推量					16				
	疑念					17				
	可能性					18				
証拠性 モダリティ	視覚／聴覚以外の 感覚による判断					19				
	伝聞					20				



以上本稿では、主にコンサルタントからの聞きだし調査によって、ナーナイ語においてモダリティ的機能を示す諸要素を検討した。

なお査読者から有益なコメントをいただいた。筆者の力不足のため十分に反映できなかった点もあるが、ここに記してお礼申し上げたい。コンサルタントとして協力して下さった L. T. Kile 氏にもこの場を借りてお礼申し述べたい。

### 略号・記号

1, 2, 3:	INF: infinitive 不定形
1 <sup>st</sup> person, 2 <sup>nd</sup> person, 3 <sup>rd</sup> person	INS: instrumental case 道具格
ABL: ablative 奪格	INT: intentional 意志形
ACC: accusative 対格	LOC: locative 処格
ADJVLZ: adjectivalizer 形容詞化	NEG: negative 否定
ALIEN: alienable possession 譲渡可能所有	NMLZ: nominalizer 名詞化
ANT: anterior converb 先行副動詞	OBL: oblique 斜格標示
ASP: aspect アスペクト (標示)	OBLG: obligation 義務
CAUS: causative 使役	ONOMAT: onomatopoeia 擬声語
CLT: clitics 付属語	OPT: optative mood 希求法
COHOR: cohortative mood 意志・勧誘法	PST: past 過去
COMP: comparative 比較級	PERS: personal 人称
COND: conditional 条件	PL: plural 複数
CONV: converb 副動詞	POSS: possessive 所有
CUM: cumulative 累加	PRH: prohibitive 禁止
DAT: dative 与格	PRN: pronoun 代名詞
DESIG: designative case 指定格	PROP: proprietive 恒常的所有
DIM: diminutive 指小辞	PRS: present 現在
DIR: directive 方向格	PTCP: participle 形動詞
DIRINT: directional intentional 移動の目的	PURP: purposive converb 目的副動詞
E: epenthetic vowel 挿入母音	QUOT: quotation 引用
EMO: emotional 感情	REF: reflexive 再帰
EMP: emphasis 強調	REPET: repetitive-reversive aspect
FILLER: filler フィラー	再度・反動アスペクト
FUT: future 未来	SG: singular 単数
IMP: imperative 命令法	SIM: simultaneous converb 同時副動詞

IMPERS: impersonal 非人称

INC: inchoative aspect 始動相

IND: indicative mood 直説法

SPEC: speculation 推測

SUBJ: subjunctive 仮定法

#### 参考文献

Avrorin, V. A. 1961. *grammatika nanajskogo jazyka, tl, tll*. AN SSSR, Moskva/Leningrad.

風間伸次郎 2009. 「ナーナイ語の非人称形動詞について」『アジア・アフリカの言語と言語学』4. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所. 133-148.